

# フランス語基本動詞の活用の学び方

## －中級学習者のために－ (1)

三 上 純 子

### I. はじめに

動詞の活用に習熟することは、フランス語の運用能力を身につけるための必須課題の一つである。しかしながら、現状では、動詞の活用を学習者にどのように学ばせるかという教育的な問題は十分に考えられているとは言い難い。

そのことは、一方には、初心者向きの文法教科書等における動詞の活用についての概略的な案内や、動詞の活用は難しくないという印象を与えることに主眼をおいた学習書があり、他方には仏和辞典の付録に見られる、動詞活用の体系的な説明を目的とした解説があるという状況に表れている。

初学者は、普通、活用は専ら覚えるように指導される。無論、動詞活用が実際のコミュニケーションの場で役立つためには、即座に口をついてでてこななければならない、覚える努力は不可欠である。とはいえ、仏検でいえば5級、4級レベルの段階では、動詞の数も限られているので、ごく基本的な原則と丸覚えで学べるとしても、必要な語彙数が大幅に増える2級以上に進もうとする学習者にとっては、こうした指導だけでは不十分である。覚える作業の道標となるような、より細かい実際的な原則が示されれば、このレベルの学習者が動詞活用の習得に挑戦する助けとなるであろう。

本稿では、このような視点に立って、中級学習者のための動詞活用の学び方を提案したい。この試みの基礎にあるのは『ディコ仏和辞典』（白水社）に付せられた、一戸とおる氏による「動詞活用の体系」という解説である。この説

明はよく整理されているが、今日の学習者がこの解説と動詞活用表だけを頼りに活用を覚えるのは必ずしも容易ではあるまい。

そこで、筆者は、一戸氏の仕事をより学習者向けに改良したいと考えた。主な改良点は、第一に、対象とする動詞を中級学習者が優先的に覚える方が望ましいと思われる使用頻度の高い動詞に限ったこと、第二に、原則（及び例外）に依拠した活用の作り方のモデルを個々の動詞パターンについて示したことである。動詞の絞り込みには『ディコ仏和辞典』（白水社）と『プチ・ロワイヤル仏和辞典（第3版）』で行われている3段階の重要語指定を活用し、この両者のどちらかに重要語の印が付されているものを対象とした。動詞の総数は900余りである<sup>1</sup>。これらの動詞は63<sup>2</sup>に分類したが、その順番は概ね『ディコ仏和辞典』の活用表にならった。ただし、avoir、être、finir等の分類番号を変更したことにより、番号そのものにはずれが生じている。また、『ディコ仏和辞典』の活用表にはあっても基本動詞にないパターンを除外したり、分類番号をまとめた場合もあるので、パターンの総数は減少している。

なお、この試みで提示される原則は、あくまでも学習を助けるための実践的な原則であり、語形成に関わる学問的な解釈ではないことをお断りしておく。このシステムによれば、「不定詞」を基にして、「直説法現在」、「過去分詞」、「直説法単純過去」「直説法単純未来」の作り方を理解すれば、他の法、時制を作ることができる<sup>3</sup>。本稿では、動詞活用の中でも最も重要な、「直説法現在」を「不定詞」から作る方法を提案し、その他の活用形については次回扱うこととしたい。

## II. 基本動詞の直説法現在の活用パターン

本稿で提示する直説法現在形活用の作り方の大枠は、

- ① 各動詞の現在形の語尾タイプを確認する。
- ② ①を踏まえて、不定詞の語尾を除いた不定詞語幹から直説法現在語幹を設定する。
- ③ ②で得られた語幹に①の語尾をつける。

という手順である。以下の説明では、ここで用いた用語上の約束事から活用の作り方までの流れを箇条書きにして述べることにする<sup>4</sup>。次に、この方法によりどのように活用が作られるかを62の動詞について示し<sup>5</sup>、さらに、それらを整理した活用分類表を載せる。なお、この方法で動詞活用を行うためには、音節の切り方の基本、とりわけeの読み方の原則の理解が前提となることを申し添えておく。

## 1. 用語

本稿で用いる特殊な用語については以下のように定義する。

- ・弱音節：[ə] または [-] の e を含む綴り字上の音節
- ・e型：単数人称語尾が -e [-]、-es [-]、-e [-] となるタイプ
- ・s型：単数人称語尾が -s [-]、-s [-]、-t [-] となるタイプ
- ・準不定詞語幹：3.不定詞語幹 2) を参照のこと
- ・子音幹型：s型動詞のうち、語幹末が子音で終わるもの
- ・母音幹型：s型動詞のうち、語幹末が母音で終わるもの

## 2. 補足規則

### 1) 1音節の動詞に関する補足規則

1音節は弱音節ではあり得ない。

### 2) 語末および語幹末に共通する補足規則

弱音節が連続することは忌避される。

### 3) 語幹末に関する補足規則

a. [s] と発音すべき c は直後が a、o、u のときは ç と綴る。

b. [ʒ] と発音すべき g は直後が a、o のときは ge と綴る。

c. 直後が発音される母音字のときは i を y に変える。

ai → ay、oi → oy、ui → uy

d. 鼻母音の直後に [n]、[ɲ] が来ることはない。

### 3. 不定詞語幹

- 1) 不定詞からそれぞれ -er、-ir、-oir、-re (不定詞語尾) を除いたものを不定詞語幹とする。

(注) [7b][8][9]では、語幹末の y を i に変えたものが不定詞語幹となる (2.補足規則3) c.)。

- 2) [11]~[13]、[22]~[24]では、-rのみを除いた部分を語幹とする場合もある。これを準不定詞語幹と呼ぶことにする。

### 4. 直説法現在の作り方

- 1) 動詞の語尾タイプ (e型かs型か) を確認する (5.)。
- 2) 直説法現在語幹を設定する (6.)。
- 3) 語幹に語尾を付ける。
- 4) 母音交替を勘案する (7.)。

### 5. 直説法現在語尾

#### 1) 単数人称

- ・ e型: -er 動詞、および [14][15]
- ・ s型: それ以外の動詞

(注1) 単数語幹が d, t, c で終わるものは単数3人称語尾 -t を付加しない。

(注2) [26]~[28]では -x [-], -x [-], -t [-]

#### 2) 複数人称: -ons[ɔ̃]、-ez [e]、-ent [-]

### 6. 直説法現在語幹

- 1) e型の動詞: 不定詞語幹
- 2) s型の動詞: 不定詞語幹 ([11]~[13]、[22]~[24]では準不定詞語幹) をもとにする。

#### a. 子音幹の場合

- ・ 単数人称: 不定詞語幹から末尾の子音 (字) を除いたもの

(注1) 子音 (字) が r の場合は脱落しない。

(注 2) 綴り字上は、子音字が保存される場合がある ([37]~[42], [44])。

・複数人称：不定詞語幹

#### b. 母音幹の場合

・単数人称：(準) 不定詞語幹

・複数人称：(準) 不定詞語幹 +ss [s] ([11], [12])  
+s [z] (それ以外)

### 7. 母音交替

1) 語幹の母音が変化することがある (これを母音交替と呼ぶ)。

2) 2.補足規則 3) c. による i から y への変化 ([j]の付加) は母音交替とみなさないことにする。

### 8. 直説法現在の実例

以下の矢印で示した変化は、上記の原則 (および例外事項) を踏まえて直説法現在の形成の作業仮説を示したものである。イタリックは母音交替、太字は上記の原則からはずれるものを表している。これらについては、何に関する例外かを示せる場合は注記する。

#### [1] aim-er

je: aim + e → aime

nous: aim + ons → aimons

#### [2] commenc-er

je: commenc + e → commence

nous: commenc + ons → commencons → commençons

補 3) a.

#### [3] mang-er.

je: mang + e → mange

nous: mang + ons → mangons → mangeons

補 3) b.

## [4] préférer

je: préférer + e → préfère → préfère

補 2) (アクセント記号の変更) による母音交替[e]→[ɛ]

nous: préférer + ons → préférons

## [5] lever

je: lever + e → leve → lève

補 2) (アクセント・グラフの付加) による母音交替[ə]→[ɛ]

nous: lever + ons → levons

## [6] appeler

je: appeler + e → appelle → appelle

補 2) (子音字重複) による母音交替[ə]→[ɛ]

nous: appeler + ons → appelons

## [7a] payer

je: payer + e → paie

nous: payer + ons → payons

## [7b] paier, [8] employer, [9] envoyer

je: paier + e → paie

nous: paier + ons → paions → payons

補 3) c.

## [10] aller

je **vais**

例外

tu: **vas**

例外

il: **va**

例外

nous: aller + ons → allons

vous: aller + ez → allez

ils: **vont**

例外

## [11] finir

je: finir + s → finis

nous: finir + ons → finissons

## [12] haï-r

je: haï + s → hais

nous: haïs + ons → haïss + ons → haïssons

## [13] fui-r

je: fui + s → fuis

nous: fuis + ons → fui◇ + ons → fuions → fuyons

語幹末子音ゼロ (例外) / 補 3) c.

## [14] cueill-ir, [15] ouvr-ir

je: ouvr + e → ouvre

語尾 e 型

nous: ouvr + ons → ouvrons

## [16] cour-ir

je: cour + s → cours

語幹末子音 r 保存

nous: cour + ons → courons

## [17] mour-ir

je: mour + s → mours → meurs 語幹末子音 r 保存 / 母音交替 [u]→[œ]

nous: mour + ons → mourons

ils: mour + ent → mourent → meurent

同上

## [18] acquér-ir

je: acquér + s → acquérs → acquiers

語幹末子音 r 保存 / 母音交替 [e]→[jɛ]

nous: acquér + ons → acquérons

ils: acquér + ent → acquèrent → acquièrent

母音交替 [e]→[jɛ]

## [19] ven-ir

je: ve + s → ves → viens

補 1) による母音交替[ə]→[j]

nous: ven + ons → venons

ils: ven + ent → venent → viennent

補 2) / 補 3) d. による母音交替[ə]→[jɛ̃]→[jɛ]

## [20] sort-ir

je: sor + s → sors

nous: sort + ons → sortons

## [22] prévoi-r, [23] voi-r

je: voi + s → vois

nous: vois + ons → voi◇ + ons → voions → voyons

語幹末子音ゼ口 (例外) / 補 3) c.

## [24a] asseoi-r

je: asseoi + s → *assied* + s → assieds

母音交替 [wa]→[je]

il: asseoi + t → *assied* + t → assied

同上 / 語尾 -t 脱落

nous: asseois + ons → assey + ons → asseyons

母音交替 [wa]→[εj]

ils: asseois + ent → assey + ent → asseyent

同上

## [24b] asseoi-r

je: asseoi + s → assoi + s → assois

文字 e 脱落

nous: asseois + ons → assoi◇ + ons → assoions → assoyons

同上 / 語幹末子音ゼ口(例外) / 補 3) c.

## [25] fall-oir

il: fa + t → fat → *faut*

母音交替 [a]→[o]

## [26] val-oir

je: va + x → vax → *vaux*

語尾 -x / 母音交替 [a]→[o]

nous: val + ons → valons

## [27] voul-oir, [28] pouv-oir

je: vou + x → voux → *veux*

語尾 -x / 母音交替 [u]→[ø]

nous: voul + ons → voulons

ils: voul + ent → veulent → *veulent*

母音交替 [u]→[œ]

## [29] émouv-oir

je: émou + s → émous → *émeus*

母音交替 [u]→[ø]

nous: émouv + ons → émouvons

ils: émouv + ent → émouvent → *émeuvent*

母音交替 [u]→[œ]

## [30] recev-oir

je: rece + s → reces → *reçois*

補2) / 補3) a.による母音交替[ə]→[wa]

nous: recev + ons → *recevons*

## [31] dev-oir

je: de + s → des → *dois*

補1) による母音交替[ə]→[wa]

nous: dev + ons → *devons*

## [32] pleuv-oir

il: pleu + t → *pleut*

## [33] sav-oir

je: sa + s → sas → *sais*

母音交替 [a]→[ɛ]

nous: sav + ons → *savons*

## [34] av-oir

je: **ai**

例外

tu: **as**

例外

il: **a**

例外

nous: av + ons → *avons*vous: av + ez → *avez*ils: **ont**

例外

## [35] suiv-re, [36] viv-re

je: sui + s → *suis*nous: suiv + ons → *suivons*

## [37] romp-re

je: rom(p) + s → *romps*

語幹末子音字保存

nous: romp + ons → *rompons*

## [38] batt-re, [39] mett-re

je: ba(t) + s → *bats*

語幹末子音字保存

il: ba(t) + t → *bat*

同上 / 語尾 -t 脱落

nous: batt + ons → *battons*

## [40] vainc-re

je: vain(c) + s → vaincs

語幹末子音字保存

il: vain(c) + t → vainc

同上／語尾 -t 脱落

nous: vainc + ons → vainqu + ons → vainquons

語幹末子音の綴り変化 (例外)

## [41] rend-re

je: ren(d) + s → rends

語幹末子音字保存

il: ren(d) + t → rend

同上／語尾 -t 脱落

nous: rend + ons → rendons

## [42] coud-re

je: cou(d) + s → couds

語幹末子音字保存

il: cou(d) + t → coud

同上／語尾 -t 脱落

nous: coud + ons → cous + ons → cousons

語幹末子音 s (例外)

## [43] résoud-re

je: résou + s → résous

nous: résoud + ons → résouv + ons → résouvons → résolvons

語幹末子音 v (例外) / 母音交替 [u]→[ɔ]

## [44] prend-re

je: pren(d) + s → prends

語幹末子音字保存

il: pren(d) + t → prend

同上／語尾 -t 脱落

nous: prend + ons → pren◇ + ons → prenons

語幹末子音脱落 (例外) / 補 3) d.による母音交替 [ã]→[ə]

ils: prend + ent → pren◇ + ent → prenent → prennent

語幹末子音脱落 (例外) / 補 2) による母音交替 [ã]→[ə]→[ɛ]

## [45] craind-re

je: crain + s → crains

nous: craind + ons → crain◇ + ons → craignons

語幹末子音脱落 (例外) / 補 3) d.による母音交替 [ɛ]→[ɛɪ]

[46] connaît-re, [47] naït-re

je: naï + s → naïs → nais

文字 s の前でのアクセサン・シルコンプレクス脱落 (例外)

il: naï + t → naït

nous: naït + ons → naïss + ons → naiss + ons → naissons

文字 s の前でのアクセサン・シルコンプレクス脱落(例外) / 語幹末子音 s (例外)

[48] êt-re

je: **suis** 例外

tu: **es** 例外

il: **est** 例外

nous: **sommes** 例外

vous: **êtes** 例外

ils: **sont** 例外

[49] nui-re, [50] condui-re, [51] suffi-re, [52] li-re, [53] interdi-re, [56] tai-re

je: li + s → lis

nous: lis + ons → lisons

[54] di-re

je: di + s → dis

nous: dis + ons → disons

vous: dis + ez → disez → dites 例外

[55] fai-re

je: fai + s → fais

nous: fais + ons → faisons → **faisons** 母音交替[ɛ]→[ə] (例外)

vous: fais + ez → faisez → **faites** 例外

ils: fais + ent → font 例外

[57] plai-re

je: plai + s → plais

il: plai + t → plait → plaît

文字 t の前でのアクセサン・シルコンプレクス付加 (例外)

nous: plais + ons → plaisons

## [58] écri-re

je: écri + s → écris

nous: écris + ons → écriv + ons → écrivons

語幹末子音 v (例外)

## [59] boi-re

je: boi + s → bois

nous: bois + ons → boiv + ons → boivons → buvons

語幹末子音 v (例外) / 母音交替 [wa]→[y]

ils: bois + ent → boiv + ent → boivent

語幹末子音 v (例外)

## [60] croi-re, [61] distrai-re

je: croi + s → crois

nous: crois + ons → croi◇ + ons → croions → croyons

語幹末子音ゼロ (例外) / 補 3) c.

ils: crois + ent → croi◇ + ent → croient

語幹末子音ゼロ (例外)

## [62] ri-re, [63] conclu-re

je: ri + s → ris

nous: ris + ons → ri◇ + ons → rions

語幹末子音ゼロ (例外)

## 9. 活用パターンについての補足

実例及び分類表について、いくつか指摘できる点を補足しておきたい。まず、動詞を基本動詞に絞り込んだことから次のようなことが見えてくる。活用パターンは大きく分けて、同型の活用をする動詞を多くもつものと、仲間がきわめて少ないものに二分できる。つまり、少ないものについては個別に活用を覚えてしまえば、他のものは、限られたパターンを学ぶことにより作れるわけである。

また、不定詞語尾が ir で終わる動詞に関しては、一般に、どの活用パターンに属しているかを知るには辞書などで調べる以外にないとされている。だが、本稿の試みのように動詞の数を限定してみると、finir 型を除いては、数がかなり限られてくるので、それらをパターン別に覚えれば、残りの動詞は finir 型だと判断することができる。なお付言すれば、最重要語 (『ディコ仏和辞典』または『プチ・ロワイヤル仏和辞典 (第 3 版)』) に最重要語の印がついている語

## 直説法現在活用分類表

活用パターン	不定詞語尾	語幹末子音	母音交替なし	母音交替あり
e型				
	er		#1.aimer, 7a.payer / 2.commencer / 3. manger / 7b.payer, 8.employer, 9.envoyer	#4.préférer #5.lever / 6.appeler
	ir		#14.cueillir, 15.ouvrir	
s型母音幹				
	[-] → 単 [-] 複 [-C]			
	ir	[s]	#11.firir	#12.hair
	oir	[-]	#13.fuir	#24a.asseoir*
	re	[-]	#22.prévoir, 23.voir, 24b.asseoir*	
		[z]	#49.nuire, 50.conduire, 51.suffire, 52.lire 53.interdire, 54.dire*, 55.faire*, 56.taie, 57.plaire*	#59.boire
		[v]	#58.écrire	
		[-]	#60.croire, 61.distraire / 62.rire, 63.conclure	
s型子音幹				
	[-C] → 単 [-] 複 [-C]			
	ir	[C]	#16.courir	#17.mourir #18.acquérir #19.venir
	oir	[C]	#20.sortir	#25.falloir, 26.valoir #27.vouloir, 28.pouvoir / 29.émouvoir #30.recevoir, 31.devoir #33.savoir
	re	[C]	#35.suivre, 36.vivre #37.rompre / 38.battre, 39.mettre, 40.vaincre*, 41.rendre #42.coudre #46.connaître*, 47.naître*	#43.résoudre #44.prendre #45.craindre
		[z]		
		[s]		
		[v]		
		[n]		
		[ʃ]		
不規則				
	er			#10.aller #34.avoir #48.être
	oir			
	re			

- (注) 1. 行頭の#以下の動詞は同一パターンに属する。  
 2. \*のついた動詞は例外的な要素をもつ。  
 3. イタリック体の動詞は準不定詞語幹をとる。  
 4. [C]は子音の存在を表す。  
 5. 21.fallirは除く。

彙) のレベルに限るならば、finir型も含め、活用パターン別に属する動詞を記憶するのはさほど難しいことではあるまい。(finir型：choisir, finir, réussir/ ouvrir型：offrir, ouvrir/ courir型：courir/ mourir型：mourir/ venir型：devenir, revenir, souvenir, tenir, venir/ sortir型：dormir, partir, sentir, servir, sortir)

最後に母音交替についての気づきをまとめておく。母音交替の人称パターンは以下のように類別できる。発音（および綴り字）の変化は個々に覚える必要があるが、以下のまとめを見るとわかるように、交替のパターンは限られる。

a. [単数人称 + 複数3人称] vs [複数1・2人称]

- ・綴り字eの読み方に関わるもの 4.préférer, 18.acquérir / 5.lever, 6.appeler
- ・綴り字ouがeuに替わるもの 17.mourir, 27.vouloir, 28.pouvoir, 29.émouvoir
- ・綴り字eがoiに、oiがuに替わるもの 30.recevoir, 31.devoir / 59.boire

b. [単数人称] vs [複数人称]

- ・綴り字aの変化(ai→ai, a→ai, a→au) に関わるもの  
12.haïr, 33.savoir / 25.falloir, 26.valoir
- ・(その他) 24a.asseoir, 43.résoudre, 45.craindre

c. [単数人称] vs [複数1・2人称] vs [複数3人称]

- ・綴り字enの変化に関わるもの 19.venir, 44.prendre

### III. おわりに

最後に、この方法を使って学習者を指導する際の注意事項について考えてみたい。授業で学生を指導する場合には、まず教師が直説法現在形の作り方を説明し、学生に原則通りの動詞の活用を作らせる。例外的事項のある動詞については、個別にそれを提示した後、同型の動詞の活用練習をさせる。独習者の場合には、上記の原則と実例の解説を読み、活用パターン別の練習問題をこなすスタイルとなる。いずれの場合も、活用練習では動詞の活用語幹と活用語尾に注意が向くよう、両者を区別する視覚的工夫をする必要がある。

活用パターンを学ぶ順序としては、規則性の高いもの、同型の動詞を多くもつものから覚える方が効率がよいと思われる。また、「直説法現在活用分類表」

を参照しながら、初級レベルで活用を覚えている動詞と同じグループの動詞を集中的に学ぶといったやり方も有効であろう。

なお、上記の原則と例外の立て方はあくまでも便宜的なものに過ぎないことを繰り返しておきたい。学習者によっては、補足規則の一部などは例外事項と考えた方がわかりやすいという場合もあろう。教室で教える時には、学生の反応を見ながら、そのあたりを調節するのが望ましい。実のところ、最近の学生の中には、抽象的な規則を理解する作業に拒絶反応を示す層もあるので、極端な話、覚えたいという熱意さえあれば、規則について考えるよりすべての重要動詞の活用を丸暗記する方がよいというタイプの学習者もいるかもしれない。ここで提示した方法は、暗記するためには一定の規則がほしいと考えるタイプの学習者に向いている。そして、この方法で学んだ学習者も、ひとたび直説法現在の活用をマスターしてしまえば、登り終えた梯子を投げ捨てるように、ここに示した原則など忘れ去ればよいのである。

## 注

1. 紙幅の関係もあり、本稿では対象としたすべての動詞の活用分類は提示しない。
2. 63の分類番号はすべての法と時制を勘案して付した。なお、[7]と[24]はaとb、2種類の活用形を持つので活用形の総数は65となる。ただし、直説法現在については注5に述べるように、[21]を除外した。
3. このシステムでは、不定詞を基本とし、以下のように図示できる。
 

	→	直説法現在	
不定詞	→	過去分詞	→ 直説法単純過去
	→	直説法単純未来	
4. 以下本稿では「規則」と「例外」という言い方を用いるが、何を「規則」とし何を「例外」とするかは、学習者にとってのわかりやすさを考えた便宜的な判断にすぎないことをお断りしておく。
5. 分類番号は63までであるが、[21] *faillir*は日常的に現在形では用いられない動詞であるため、以下の説明では除外した。

## 参考文献

- 『ディコ仏和辞典』, 白水社, 2003.  
 『プチ・ロワイヤル仏和辞典 (第3版)』, 旺文社, 2003.

一戸とおる：「現代フランス語動詞活用体系試案 ー直説法現在ー」, 『獨協大学フランス文化研究』24, 1993, pp.123-140.

清岡智比古：『フラ語動詞、こんなにわかっていいかしら?』, 白水社、2002.

京都大学フランス語教室：『新初等フランス語教本ー文法編ー（四訂版）』, 白水社, 1997（第6刷）.

立花英裕・渡辺隆司：『SophieとNicolasのフランス語文法』, 伸興通商、1997（第3刷）

春木仁孝, 井元秀剛, 岩根久, 金崎春幸, 柏木隆雄, 北村卓, 三藤博, 高岡幸一, 和田章男：『新・フランス語文法』, 朝日出版社, 2003.

三宅徳嘉, 河村正夫：『フランス語動詞の活用』, 大修館書店、1978（第6版）.

渡辺隆司：「フランス語動詞の活用をいかに教えるか」, 『駿河台大学論叢』4, 1990, pp.75-90.

渡辺隆司：「フランス語動詞活用教授法について」, 『フランス語教育』23, 1995, pp.42-51